

SHICHINOHE

TOWN GUIDE 七戸町勢要覽



2020

SHICHINOHE
TOWN GUIDE 七戸町勢要覽

七戸町の花・木・鳥

(平成17年9月8日制定)



花 | つつじ

町には天王神社や森林公園、つつじロード等つつじの名所がたくさんあります。



木 | いちょう

樹齢750余年で幹回り12mの銀杏の大木。青森県の天然記念物に指定されています。



鳥 | キジ

日本の国鳥に選定され、童話や文学、芸術等で親しまれています。

七戸町長 小又 勉より 発刊のごあいさつ



発刊にあたって

東北新幹線七戸十和田駅が開業し、駅周辺の整備も進み、新しく道路・観光情報館が完成しました。また、周辺地区には新体育館の建設が予定されています。

今後も、継続的に町が発展していくために、第2次七戸町長期総合計画を基本とし、潤いと彩りあふれる田園文化都市をめざして、町民と一体となり広域的連携や地域経済の自立、協働のまちづくりをしてまいりたいと考えておりますので、なお一層のご理解をお願い申し上げます。

七戸町の概要

人口約15,000人、面積約337平方キロメートル、青森県の東部に位置し、国道4号が南北に縦断、国道394号が4号と交差するように東西に横断、青森市と八戸市をつなぐ上北横断道路となる上北間林道路が整備されたほか、町のほぼ中央に東北新幹線の駅舎が整備され、観光地十和田湖・下北半島をはじめとする県内各所への玄関口として、交通の要衝となっております。

町内には国指定史跡二ツ森貝塚（縄文時代）、七戸南部氏の居城であった国指定史跡七戸城跡などが残る歴史ある町です。また、鷹山宇一記念美術館など芸術・文化の薫りも高く、さらに、にんにく、長いもなど野菜の一大産地でもあります。

七戸町は自然豊かで歴史と文化のある町です。この冊子で町の魅力を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

七戸町民憲章

「今を生きる」私たちは、先人の、たゆまぬ努力によって築かれ、守られてきた

○豊かな自然

○こまやかな人情

町の誇りとして、後世に引き継がなければなりません。

ここに私たちは、七戸町の今をみつめ、あしたを思い、次のことを誓います。

- 一、自然をいたわり、住みよい環境をつくります。
- 一、よく働き、明るい家庭をつくります。
- 一、節度を守り、礼儀正しくします。
- 一、思いやりと奉仕の心を大事にします。
- 一、教養を身につけ、心豊かに暮らします。

(平成17年10月25日制定)

七戸町子ども憲章

夢や希望にあふれる七戸町に生きるわたしたちは、共に力を合わせ、新しい歴史を築いていくとともに、自らを高めていくことをちかい、ここに「七戸町子ども憲章」を定めます。

- 一、わたしたちは、豊かな自然をさらに増やします。
- 一、わたしたちは、地域の発展のために協力し、みんなの笑顔あふれる町にします。
- 一、わたしたちは、友情を深めるために、友達の良いところを見つけてます。
- 一、わたしたちは、楽しく交流しながら心と体をきたえます。
- 一、わたしたちは、未来の自分に後悔しないために、進んで学習します。

(平成17年12月17日制定)



I Love Shichinohe

ここがわたしの住んでいる町。
町を歩き、町を知り、町を愛し、生きていく。
アイラブしちのへ。

Symbol Mark 七戸町の町章



基本デザインの要素

七戸町と天間林村の合併により誕生した、新七戸町のイメージを象徴したシンボルマークは天間林の「て(七)」と七戸の「し(七)」を仲良く組み合わせ「七」の文字をモチーフとし、ふたつがひとつとなって新しい七戸町を創っていくというコンセプトから生まれました。

さらに「七」のカタチを町民にアピールしたのもあり、町の活性化と発展を目指す心を凝縮したものです。

シンボルカラーの要素

町章を彩る3色のシンボルカラー。知性・創造・空・水をイメージさせる、「しちのへブルー」。恵みの大地と豊かな自然・共生・生命を連想させる、「しちのへグリーン」。太陽とあたたかさ・豊穡をイメージさせる、「しちのへオレンジ」は、人を構成する頭部にカラーリング。町民の心の雄大さをシンボルカラーに加えたものです。

(平成17年9月8日制定)

目次

- 01 — 町長より発刊のごあいさつ
- 02 — 七戸町の花・木・鳥
七戸町民憲章・子ども憲章
- 03 — 七戸町の町章・目次
- 04 — I Love Shichinohe
アイラブしちのへ
- 05 — 七戸町の伝統文化
- 07 — 七戸町の景観と観光
- 09 — 七戸町の祭り・イベント
- 11 — 七戸町の歴史
- 13 — My Special Shichinohe
マイスペシャルしちのへ

- 17 — Town Planning Policy
七戸町施策概要
- 17 — 上十三・下北地域への玄関口
- 19 — エネルギービジョン
- 20 — 生活基盤整備
- 21 — 教育
- 22 — 保健・医療・福祉
- 23 — 農林畜産業
- 24 — 商工観光業
- 25 — スポーツレクリエーション
- 27 — 行政
- 29 — 七戸ブランド
- 30 — Shichinohe Data File
数字でみる七戸町
- 34 — Access to Shichinohe
七戸町へのアクセス



1) 神明宮大祭時に七戸神明宮で披露される親孝行踊り。舞子は6歳から12歳までの子女で、とても可愛い踊りです。 2) 神明宮大祭において神楽が奉納される。 3) 七戸町に先祖代々脈々と受け継がれてきた花松神楽。 4) 十和田地域より伝わったとされる二ツ森神楽。 5) 室町期の建築様式を今に伝える見町観音堂。 6) 見町観音堂に奉納されていた羽子板(国指定重要有形民俗文化財)。 7) 個性的な絵柄が描かれた、良馬の産地南部地方独特の小絵馬(国指定重要有形民俗文化財)。 8) 見町観音堂へと続く参道階段。



伝統を受け継ぐ心。それを次の世代に渡す心。脈々とつながる人々の思い。

七戸町の伝統文化

自然を敬い、自然と共に生きてきたこの町の文化は、やさしく生命力にあふれたものばかり。それは古代から中世、さらに現代にまで脈々とつながる、伝統です。伝統にふれる度に、私たち現代人も通過点に過ぎないという謙虚な気持ちにさせてくれます。

七戸町の郷土芸能

七戸町には「天間のみよこ」でなじみ深い南部民謡「虎丈さま」や南部藩36代藩主利敬公(1784~1820)が領民教育のために創った「親孝行踊り」など様々な郷土芸能が伝承されています。また古くから人と馬との生活が根付いていたため、人々の馬への愛着心は強く、「小絵馬」や「南部駒踊り」など馬との深い関わりを示すものも伝承されています。この他にも大正時代の初期に始まった山伏神楽である「四町内神楽」、「榎林神楽」、1200年の歴史がある千曳神社で伝承されてきたといわれる「上原子剣舞」、十和田より伝わったとされる「二ツ森神楽」、「花松神楽」など、七戸町には先祖から脈々と受け継がれてきたふるさとの伝統芸能が残されており、現在も活動しています。

親孝行踊り

神明宮大祭(しちのへ秋まつり)で披露される「親孝行踊り」は南部藩36代藩主利敬公が領民教育のために創った、数え唄形式の親孝行をすすめる唄と踊りが中心となったものです。舞子は6歳から12歳までの子女で、とても可愛いらしい踊りです。

親孝行踊りが披露される七戸神明宮は七戸城跡の南東端に位置し、応永3年(1396)に創建・勧請されました。その後、南部藩5代藩主行信公により寛文4年(1664)に南部家の祈願所とされ、明治26年、現在の地に遷宮されま

した。七戸の総氏神様として町民の信心を集めています。

南部小絵馬・羽子板

(国指定重要有形民俗文化財)

絵馬は、もともと生きた馬を神にささげる風習が代替されたものといわれています。古くから良馬の産地として知られていた南部地方には、独特の絵柄の「南部小絵馬」が生まれました。この「小絵馬」は見町観音堂と小田子不動堂に奉納されておりましたが、現在は鷹山宇一記念美術館の絵馬館に展示収蔵されており、庶民信仰のありようを今に伝える貴重な絵馬として国指定の文化財になっています。

質・量ともに充実している七戸の小絵馬は、馬が人々の暮らしに欠かせない存在だったことを伝えています。また、見町観音堂に奉納されていた、室町期の古型を保った羽子板も残されており、当時の庶民信仰の実態を知ることができる貴重な資料となっています。

見町観音堂

(県重宝)

応永3年(1396)創建。室町時代の建築様式を今に伝える県内では数少ない県指定の建造物です。現在のものは延宝4年(1676)に再建されたものといわれています。堂内には南部小絵馬をはじめ、羽子板など往事の庶民信仰のありようを伝える資料が奉納されていました。



1)町の花であるつつじを、道の駅しちのへ前から奥羽牧場内の並木通り沿いに、真っ直ぐ5kmに渡って植栽したつつじロード。 2)七戸町は古くから競走馬の産地で、諏訪牧場ではグリーングラス、タムロチェリーなど多くの名馬を輩出している。牧場で遊ぶ馬たちを国道4号から眺めることができる。 3)七戸特産のにんにくや長いもなどの収穫体験などを行い、農業や自然とのふれあいを楽しく体験する「かだれ田舎体験」。 4)樹齢750余年、見事な幹の銀南木。 5)バラの見ごろとなる初夏には大勢の観光客で賑わう東八甲田ローズカントリー。市価よりも安くバラを販売している。 6)大自然の中で家族や仲間と思いっきりアウトドアを満喫できる東八甲田家族旅行村。 7)オレンジ色のかわいらしい車両で親しまれているレールバス。 8)ヒナコウモリの日本最大の繁殖地であるコウモリ小舎。



深い森、清らかな流れ。大地の鼓動が心に響く美しい里。

七戸町の景観と観光

このまちはどこか土の匂いがします。はじめて訪れたのになぜか懐かしい風景。そして、歴史と文化に育まれた町の質感。景観美と人の情にすぐれたこの町の風情は、一人で訪ねても大勢で訪ねても、きっと実のある旅が楽しめることでしょう。

天王神社とつつじまつり

市街地の小高い丘にある天王神社。毎年5月には町の花である約500本のつつじが咲き誇ります。天王つつじまつりでは、夜にライトアップされたつつじが幻想的な美しさを見せ、訪れる多くの方々を魅了します。

つつじロード

道の駅しちのへ前から5キロメートルに渡ってつつじが植栽されているつつじロード。見頃を迎える5月には、道の両側に咲き誇るつつじが観光客をお出迎えし、車でドライブする人や、のんびり散歩する人々の目を楽しませます。

かだれ田舎体験

七戸の自然を満喫する体験や遊びを楽しむことができます。「かだれ田舎体験」を行っています。七戸特産のにんにくやアピオス、長いもなどの収穫体験をはじめ、囲炉裏などがある宿泊交流施設「かだれ天間林」を利用した郷土料理体験など、地元の人と一緒に田舎生活が体験できる様々なメニューを用意しています。「かだれ」には、方言で「仲間になって」と「語り合います」の2つの意味があります。

五庵川原の銀南木

樹齢750余年を生きている、樹高26メートル、幹回り12メートルの銀南木。昭和31年5月14日、青森県天然記念物に指定されました。この木のそばに五庵川原は、臨済宗の名僧法身国師のゆかり

の地とされ、法身国師が手植えをしたと伝えられています。

しちのへバラまつり

東八甲田ローズカントリーにおいて、バラの花が一番きれいな、6月下旬から7月上旬にかけて開催されます。カラフルな色のバラが咲き乱れ、来場者を安らぎと癒しの空間に誘います。

東八甲田家族旅行村

東八甲田家族旅行村は、家族で楽しめるアウトドアスポットです。オートキャンプ場やケビン施設、バーベキューハウス、散策路などがあり、自然を満喫することができます。また、高台からは、小川原湖や八甲田連峰の眺めを楽しむことができます。

レールバス

平成14年に廃線となった南部縦貫鉄道。車両は愛くるしく、レールバスの愛称で親しまれていました。廃線後、鉄道ファンの強い熱意で動態保存され、毎年春のゴールデンウィーク時には体験乗車できるイベントが開催されています。

天間館神社のコウモリ小舎

天間館神社の境内にあるコウモリ小舎には、毎年繁殖期になると、約1500頭のヒナコウモリが住みつきます。昭和52年に小屋が造られてから40年以上たち、珍しいとされるヒナコウモリの日本最大の繁殖地として知られるようになりました。



1) 掛け声とともに太鼓を打ち鳴らす、勇壮な「けんか太鼓」の競演でボルテージが最高潮に達する「しちのへ秋まつり」。 2-3) 祭りを愛する人たちが世代を超え、華やかな山車を引き連れて町を練り歩く。 4) 大型馬のかん高いななきと、馬主の威勢のよい掛け声がこだまする馬力大会。 5) 園児によるお遊戯も披露される「しちのへ夏まつり」。 6) 夏まつりではたくさんの屋台が出店し賑わいをみせる。 7) 毎年2月に行われる雪合戦ホワイトバトル。約60チーム、500人ほどが参加し、雪上で熱い試合を繰り広げる。

人が舞い、人が歌い、人が祈る。やがて祝福の神が降りてくる。

七戸町の祭り・イベント

五穀豊稔を願い、その年の収穫に感謝する祭りの数々は町民の生活の一部となっています。当然のことながら祭りは一人ではできません。人々の間で共催されなければ祭りとして成立せず継承もされません。つまり、祭りがあるということは町にコミュニティが息づいているという証なのです。

しちのへ秋まつり

秋を彩るしちのへ秋まつり(神明宮大祭)は毎年9月に行われます。昔話、歌舞伎、伝説などから題材を選んだ、各町内会自主制作による華麗な山車が、笛や太鼓のお囃子と共に、五穀豊稔を願いながら市街を勇壮に練り歩く、町の代表的な行事です。「けんか太鼓」と「休み太鼓」による激しさと優雅さの対比が観客を魅了します。前夜祭や、夜間山車運行、中日の仮装大会と十分に楽しむことができます。

七戸町の山車

七戸町の山車は「絵馬型風流山車」と呼ばれ、南部小絵馬をモチーフにした大型の絵馬が、後部に配置されている特徴ある形状です。

道の駅しちのへ内にある「しちのへ秋まつり山車展示館」には、山車が常設展示されています。

馬力大会

古来七戸は、馬産地として有名でしたが、明治2年、七戸藩主、南部信方の父信民が七戸の産業振興のため、養蚕・馬鈴薯の栽培を奨励する一方、畜産の振興にも力を注ぎました。このため、明治期に浜中牧場・盛田牧場・工藤牧場などの牧場が相次いで設立されています。

近年、農業の急速な機械化によって農耕馬が減少したことに伴い、かつては盛んに行われていた馬力大会も衰退していきしましたが、「馬産地七戸で再び馬力

大会を」を合い言葉に、周辺町村の有志たちの働きかけによって「北海道・東北馬力七戸場所」が開催され、現在では「東北馬力七戸大会」と名を変え、開催されています。

馬のかん高いななきと、馬主の威勢のよい掛け声がこだまする大迫力のレースは、毎年春と秋の2回行われ、七戸の代表的なイベントとして定着しています。

しちのへ夏まつり

七戸町の夏を盛り上げる、8月の大イベント。七戸町中央公園において開催され、郷土芸能やキャラクターショー、有名ゲストによる歌謡ショーなど多彩な催しが行われます。

天間のみよこ

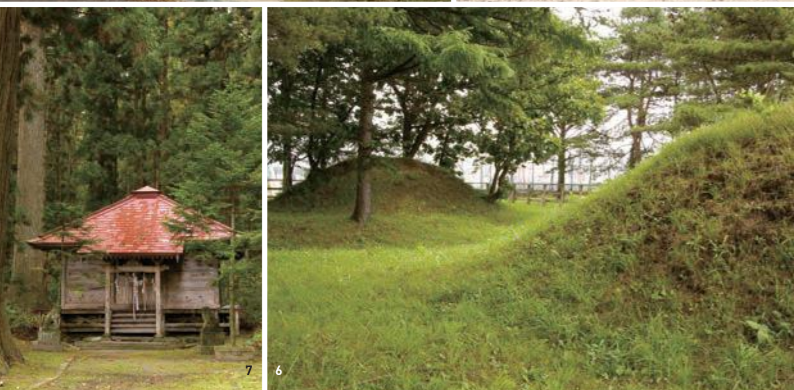
天間のみよこの姿が見れば
つらい仕事もこわくない

青森の県南地方を代表する盆踊り民謡「虎丈さま」に登場する天間のみよこは、明治24年12月10日、天間館集落に生まれた実在の女性「みゑ」(愛称みよこ)がモデルといわれています。

一説によると、みよこは15歳のころ、旧陸軍軍馬補充部七戸支部に農婦として働き、その美貌と底抜けの明るさ、気立ての良さで若者たちの憧れの的になったそうです。つらく貧しかった明治末期に、厳しい生活の中でも明るく生き抜いた姿が人々の生きる希望の象徴になり、現在まで語り継がれています。



1)町文化財に指定されている青岩寺山門。明治6年に旧七戸代官所の城門を移設したもので、門の両側には仁王様が安置されている。 2)馬の神社として知られ、広く上北地方馬産家の信仰を集める花松神社。 3)復元された七戸城東門。 4)旧七戸郵便局は昭和3年に建設された特定郵便局舎で、平成12年に国の登録有形文化財に指定された。昭和初期のたたずまいを残している。 5)約120年前に建立された入母屋造りの瑞龍寺山門。重厚な風格を備えている。 6)県指定史跡の一里塚(蒼前平)。一里塚とは藩政時代、江戸日本橋より街道筋の一里(約4km)毎に、旅人の道しるべ・休憩所として配置されたもの。蒼前平の一里塚は、街道を挟む2つの塚が原形を残しており、県内で最も美しい一里塚といわれている。 7)町指定有形文化財に指定されている山屋薬師堂の山屋薬師如来像は鎌倉時代の作とされている。



すべてが移ろう時の流れの中で、変わらないものがある。

七戸町の歴史

かつてこの地を切り拓き、大志を抱いて国づくりを行った人々の流した汗。まるでその汗をすべて吸収したかのようにそびえたつ大樹の高みを仰ぎ見るたびに、私たちはこの地に生まれた幸福を感じつつ、自らの使命感に思いを馳せるのです。

国指定史跡 ニッ森貝塚

小川原湖に注ぐ七戸川と赤川に挟まれた台地上にあるニッ森貝塚は、県内最大の貝塚遺跡で全国でも有数の規模を誇る、縄文時代前期から中期(現在から約5500年〜4000年前)の遺跡です。竪穴住居跡、土坑墓、骨製の精巧なアークセサリー、石器や土器、人骨も出土しており、中でも「鯨骨製青竜刀形骨器」などの四点の出土品は青森県重宝にも指定されています。

遺跡範囲の内、東地区3.6ヘクタールが史跡公園として保存され、復元された2棟の竪穴住居、植生環境「縄文の森」散策路、見晴らし台などが整備されています。平成10年に国史跡に指定されました。

現在は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産登録を目指しており、他の事業とも連携を図りながら、PR活動やおもてなし体制の整備に取り組んでいます。

「戸(へ)」の由来

岩手県北部から青森県南部にかけて、「二戸」から「九戸」という地名があります。この「戸」の起源は、12世紀の奥州藤原氏の時代のものといわれています。

古代の都城平安京の都市計画で最小の地割単位を戸主といいましたが「戸」の由来はここからきているものと考えられています。また、一戸から九戸に至る編成は、中央の文物と政治的支配により岩手県の平泉を経由して入ってきたものと

考えられています。その後、13世紀の鎌倉時代、南部氏が糠部地方を拝領したときに、以前にあった地名をそのまま継承して使ったのではないかと考えられています。

国指定史跡 七戸城跡

七戸城跡は昭和16年12月に国指定史跡となりました。七戸城跡は14世紀中頃、南部政長の築城であると伝えられていますが、近年の発掘調査の結果から、14世紀末の南部政光の時代に七戸城が大規模に造られたことが明らかとなりました。発掘調査の結果では、御主殿や奥御殿、常御殿、宝物殿といった象徴的な建物が検出されています。七戸城跡の規模は、指定面積で約17ヘクタール、未指定部分を入れると25ヘクタールと規模雄大なものであるため、七戸城は南部氏の一居城だと考えられています。また、城の規模、内部の建物の豪華さなどから、14世紀末から16世紀末まで、南部氏の北方に対する最前線基地としての役割を担っていたと考えられています。

天正19年(1591)城主七戸家國は「九戸政実の乱」に加担し、豊臣秀吉率いる三戸南部氏に攻め落とされ七戸城は落城しました。こうして七戸氏は断絶しましたが、由緒ある「七戸」の名を絶やしたくないということから、江戸時代初期に規模を縮小した形で七戸城が構築されました。寛文4年(1664)七戸城主であった重信が盛岡藩第29代藩主となると、盛岡藩直轄の代官所が置かれ、明治2年には七戸藩が置かれたとされています。



003

笑顔があふれるレールバス

オレンジ色の鉄道に乗る人と乗せる人。
そこにはとてもいい笑顔があります。



002

柏葉公園の桜

青空に広がるピンク色のカーテン。
城下町の桜はとてもきれいです。



005

しちのへバラまつり

6月のバラの匂い。
夏はもうすぐそこまで来ているようです。



004

天王神社「天王つつじまつり」

春の夜、満開のつつじが
ライトアップされます。



001

石倉山放牧場と八甲田連峰

気持ちのいい風が吹く草原は、
心身をリフレッシュさせてくれます。

特別だけど特別じゃない、自分だけの七戸町。

My Special Shichinohe

マイスペシャルしちのへ

何気なく見ている景色、毎日通いなれた道。
ふるさとを思うとき、そんな1コマの記憶が、かけがえのない宝物になるのです。
日々の暮らしのすぐ隣にある、いつもの七戸町をシャッターにおさめました。



011

旧正まける日

舞い落ちる冷たい雪にも負けない
ぬくもりが七戸にはあります。



010

そばの花

一面に咲いたそばの花が
新そばの季節の訪れを知らせます。



007

しちのへ秋まつり

秋まつりの思い出のアルバムは
家族と友の笑顔であふれます。



006

しちのへ夏まつり

夏の陽気にさそわれて
老若男女みんなで楽しむ、そんな夏まつりです。



013

しちのへホワイトバトル

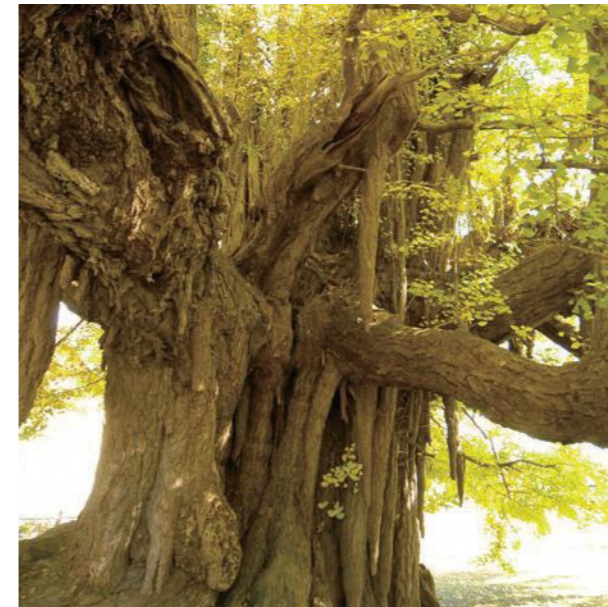
いつの間にか夢中になっている雪合戦。
まるで子どもの頃に帰ったかのよう。



012

酒蔵 駒泉の酒林

寒い冬、新酒の完成を知らせる酒林は
造り酒屋のシンボルです。



009

樹齢750余年の銀南木

五庵川原の大いちょうは
今年も黄色い秋のメッセージを届けます。



008

並木道

夕日に染まる並木道。
長くなる影が秋の訪れを予感させます。



駅舎の特徴

駅舎のデザインコンセプトは「心安らく豊かな自然と歴史が感じられる駅」。変化のある3つのボックスによって空間が構成されており、八甲田連峰の雄大さと奥州街道や牧場の並木道、七戸町の未来を表現しています。また、外壁の曲線は、八甲田連峰の山並みと南部馬の背中を表しています。

コンコースには南部裂織でつくられたタペストリーが飾られています。これは八甲田の雄大な山々をモチーフにしており、縦158センチ、横30センチの南部裂織10枚で、1つの作品に仕上がっています。コンコースの他、トイレ標示にも南部裂織が使われています。



1) 東北新幹線七戸十和田駅前全景。 2) 駅開業とともに開発がすすむ七戸十和田駅周辺地区。道の駅しちのへを中心とした上十三・下北地域の新たな玄関口・商業観光拠点として、大型スーパー開業との相乗効果により着実に集客力を強めている。 3) 七戸町の特産品である長いもやんにく、新鮮な野菜等が豊富なしちのへ産直七彩館。 4) 七戸十和田駅に隣接する「七戸町観光交流センター」は、上十三・下北地域の観光情報コーナーやカフェを備えている。また多目的ホールは様々な催事に利用できるほか、「しちのへ駅ピアノ」が置かれ、訪れた方が自由に演奏し楽しむことができる。 5) 豪華絢爛な山車が展示されている、しちのへ秋まつり山車展示館。



七戸町施策概要 | Town Planning Policy

上十三・下北地域への玄関口

2010年12月、七戸町に新幹線がやってきました。新幹線開業を新たなスタート地点と位置づけ、本駅を起点にした総合的な戦略を展開し、産業・経済・文化のさらなる発展を目指します。

東北新幹線七戸十和田駅

八甲田連峰や下北半島、十和田湖といった青森県を代表する観光地への玄関口として、誘客促進や認知拡大が図られる新幹線駅です。バスやタクシー、マイカーやレンタカー等、様々な交通アクセスに対応できるよう、駅前ターミナルが整備されています。

また、駅舎の南北には駐車場が配置され、町内外の多くの方々に利用されています。

七戸町観光交流センター

駅南口の「七戸町観光交流センター」では、七戸町を訪れる多くの方々への利便性を高めるため、観光案内所を設置し、上十三・下北地域全ての市町村に関するパンフレットを取り揃えるなど、青森観光のアクセス拠点としての役割を果たしています。

道の駅しちのへ

国道4号沿いに位置する「道の駅しちのへ」は、おみやげ品等を取り揃える物産館や町の特産品の産地直売施設、七戸町が生んだ画家の美術館など、休憩、買い物、食事、美術鑑賞といった様々な要望に応えられる施設を備えており、連日多くの利用者が訪れます。

また、24時間利用可能なトイレに加え、周辺の情報発信や防災拠点としての役割を併せ持つ施設「道路・観光情報館」も整備され、道の駅利用者のみならず地域住民の安全に寄与する機能を向上させました。

これらの地域活性化の核となる取り組みが認められ、国土交通省から「重点道の駅」に選定されました。

しちのへ産直七彩館

「しちのへ産直七彩館」には、七戸町の特産品である長いもやんにく、新鮮な野菜等が豊富にそろっているほか、漬物やトマトジュースなど加工食品のコーナーがあり、連日多くの利用客でにぎわっています。

しちのへ秋まつり山車展示館

「しちのへ秋まつり山車展示館」には、各町内会ごとに制作され、しちのへ秋まつりで市街地を練り歩く、豪華絢爛な山車が展示されており、パネルによる秋まつりについての解説を読んだり、太鼓や笛のお囃子を音声で聴くこともできます。(12月から3月まで閉館)

鷹山宇一記念美術館

館内には日本を代表する、地元七戸町出身の洋画家、故鷹山宇一画伯の幻想的な作品が数多く展示されており、透明感あふれる鷹山宇一の世界を堪能することができます。また、施設内にはランプ館、絵馬館、スペイン民芸資料館などが併設され、歴史的にも貴重な資料が展示されています。



1) 3R活動が促進され、七戸町では中学生によるリサイクル活動が行われている。
2) 東北新幹線七戸十和田駅開業に伴う交通ネットワークの拡充を図り、良好な居住環境整備を進めている。



| 七戸町施策概要 | Town Planning Policy

生活基盤整備

人と暮らしにやさしい空間を創り、
快適で彩りあふれる
安全なまちづくりを行います。

住環境・公共交通

東北新幹線七戸十和田駅の開業に伴う交通ネットワークの拡充により、周辺市町村及び都市部へのベッドタウンとなることや、観光やビジネスで本町を訪れる関係人口の増加が見込まれることから、町では良好な居住環境の整備や公営住宅の供給に努めています。また、近隣市町村との連絡はもとより、高速道路や空港へのアクセスを視野に入れた新しい公共交通ネットワークの整備を推進しています。

環境衛生については、リデュース（ゴミを減らす）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化）という「3R」を環境施策の基本に据え、リサイクルの促進強化、ゴミの減量化を進めています。

2

生活排水処理

都市基盤整備を効率的に推進するため、公共下水道の整備を効率的に推進します。また、地域住民の快適な生活環境を確保し、公衆衛生の向上と公共用水域の水質の保全を図るため、公共下水道事業及び農業集落排水事業等、生活排水処理対策を推進しています。

さらに、生活排水を適切に処理し、自然環境を保護することの大切さについての啓発活動を推進しています。



1) 環境にやさしい自然エネルギーの太陽光発電システムを導入している。 2) 町の公用車として導入している、環境にやさしい電気自動車。道の駅しちのへには、電気自動車用の急速・普通の各充電器が1台ずつ設置されている。



| 七戸町施策概要 | Town Planning Policy

エネルギービジョン

七戸町の緑豊かな自然を守るため、
低炭素社会の実現と、エネルギー資源の
有効利用に取り組んでいます。

地域新エネルギービジョン

七戸町の豊かな自然を守り、循環型社会を推進していくため、太陽光発電をはじめとする新エネルギーの普及計画として、「地域新エネルギービジョン」を策定しました。わが町における「地域の強み」を活かし、「まちぐるみ」で、「できるところから」普及を目指していくという考えに基づき、3つのプロジェクトを柱に事業を展開しています。

- ◇地域の強みを活かすプロジェクト
- ◇まちぐるみプロジェクト
- ◇できることからプロジェクト

2

〈導入実績〉

平成20年度 道の駅しちのへに太陽光発電システム（20kW）導入
平成21年度 七戸町役場本庁舎に太陽光発電システム（10kW）導入
平成22年度 七戸町役場本庁舎に太陽光発電システム（15kW）導入
平成25年度 道の駅しちのへに太陽光発電システム（10kW）及び蓄電池（30kWh）導入
城南小学校と天間西小学校に太陽光発電システム（10kW）及び蓄電池（6kWh）導入
平成26年度 城北児童センターに太陽光発電システム（5kW）及び蓄電池（7kWh）導入
平成29年度 天間林中学校に太陽光発電システム（10kW）及び蓄電池（11kWh）導入

地域省エネルギービジョン

新エネルギーだけでなく、省エネルギー及び資源の活用などの観点からも官民共同で取り組んでいくために、「地域省エネルギービジョン」を策定しました。緑あふれる美しい風景とクリーンエネルギーのまちを創出し、「自然と技術が共存するエコタウン」を目指します。

〈導入実績〉

平成22年度 環境エネルギー読本の作成
平成22年度 電気自動車リーフの導入
平成23年度 電動アシスト自転車導入

コミュニティバス

町の活性化と福祉の増進を目的とした、だれでも利用することができるコミュニティバス。町内各地域と病院、役所、スーパー等商業施設などの町内の主要施設をつないでいます。

防災・交通安全・防犯

地域防災計画の策定や防災通信体制の整備など総合防災体制の確立を図るとともに、交通インフラの整備にあわせ広域的な交通安全対策を講じています。

また、子どもたちの安全のため、家庭・学校・地域などが連携して防犯・交通安全活動を推進する環境の整備に努めています。



1)中学生による育児体験プログラムの実施。
2)小学生を対象に、国指定史跡「二ツ森貝塚」の歴史的価値観を深める講座を行っている。
3)環境教育の一環として始まった園児による七戸川へのヤマメ・イワナの稚魚放流事業。豊かな人間形成・優れた人材育成を図るため、七戸町ではコミュニティの協力を得ながら、特色ある豊かな学校づくりを推進している。



3

七戸町施策概要 | Town Planning Policy

教育

創造性を育む教育環境の整備と
ふるさとの伝統文化が息づくまちの実現へ、
全町民が生涯学習を楽しめるようサポートします。

豊かな心と文化を育むまちづくり

「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く町民の育成を目指し、学び・自立・共生の力を育む学校教育、自己の啓発・向上と社会参加を実現する社会教育、芸術・文化の伝承・創造と文化財の活用・保存、健康増進と体力向上を促進する生涯スポーツを、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

学校教育

次代を担う児童・生徒の安全を守り、健全な育成を図るため、教育環境の整備に努め、個性を尊重した指導、基礎・基

生涯学習

生活水準の向上や余暇時間の増大、高齢化の進展など、社会情勢が大きく変化している中で、心の豊かさやこだわりをもった生活を求め、新たな知識や技術の習得などの学習意欲も多様化・高度化の傾向が強まっています。公民館活動をはじめ、生涯学習の一層の充実と学習機会の拡充を図るため、生涯学習施設・保健福祉関係施設等を含めた関連施設との連携・ネットワーク化を推進し、学習情報の共有化を図りながら、各施設間の機能分担により、それぞれの地域の実情に応じた事業の展開を促進します。

環境・エネルギー教育

環境・エネルギー問題は、人類の将来の生存と繁栄にとってはもろろんのこと、資源の乏しい我が国にとっても重要な課題です。持続可能な社会の構築を目指し、生涯を通じて主体的かつ適切に判断し行動できる人間を育成するため、「環境・エネルギー教育」の重要性は高まっています。
このことから、豊かな自然や生活、エネルギーに興味を持ち、実践を通じてふるさとを愛する人材の育成を目指し、環境・エネルギー教育を展開します。



2

4

心豊かに安心して暮らせるまちづくり

心豊かに安心して暮らせるまちづくりを推進するため、地域で支え合う、保健・医療と福祉の実現を目指し、介護サービス質の向上、介護予防事業の推進、保育サービスの充実、少子化対策などに積極的に取り組んでいます。

保健・医療

町民の健康を守る「予防」の観点から、保健センター・地域包括支援センター及び老人保健施設や福祉施設との連携を強化し、緊密な情報交換体制を整備しています。また、公立七戸病院の機能拡充等、地域に密着した保健医療システムの確立と専門スタッフの確保に努めています。

福祉・障害

高齢者が地域の中で心豊かに暮らすために、また、子育て家庭の支援のために、町全体の課題としてとらえ、地域住民の協力を得ながら福祉を推進しています。さらに、高齢者や障害のある人たちが積

極的に生きがいをもって生活できるよう、社会活動に参加する機会の創出に努め、意欲ある高齢者や障害者の就労と雇用の場の拡充を支援しています。

地域包括支援センター

介護予防と高齢者が安心して暮らせる地域づくりを推進しています。

- ①介護に関する相談や心配ごと、健康や福祉、医療などの相談
- ②認知症高齢者の権利擁護や高齢者虐待の防止・早期発見及び成年後見制度の紹介や利用支援・消費者被害の防止
- ③要支援・要介護になる可能性の高い高齢者を対象とした介護予防事業の提供。要支援1・2と認定された方の介護予防サービスが適切に提供されるよう調整
- ④高齢者が適切なサービスを利用できるように、ケアマネジャーの助言や指導及び支援、また各関係機関との連携

子育て世代包括支援センター

妊娠前から子育て期にわたるまで切れ目のない支援をするため、各種相談、支援計画の作成、母子保健サービスの情報提供、関係機関との連絡調整などをおこなっています。

コミュニティづくり

日常生活圏の拡大や価値観の多様化、核家族化の進展など、地域住民の生活様式は大きく変化しており、地域住民の社会的・地域的連帯意識の希薄化が懸念されています。こうしたことから、町では多種多様な地域コミュニティ活動の育成支援に取り組み、さらにそれらの活動や地域住民の自発的な学習活動等の展開拠点となる施設の整備の充実を図っています。

七戸町施策概要 | Town Planning Policy

保健・医療・福祉

住民の暮らしと健康を守る、
医療環境・福祉の提供。
心豊かに安心して暮らせるまちづくりを進めます。



1) 2) 道の駅しちのへ道路・観光情報館。トイレ、授乳室、道路・観光情報提供室が24時間利用可能となっている。
3) しちのへ秋まつりでは、七戸町商店街に多くの観光客が訪れ、町民とともににぎわいをみせる。

| 七戸町施策概要 | Town Planning Policy

商工観光業

東北新幹線七戸十和田駅開業を機会に、優れた自然的資源、歴史・文化的資源を活用した「商工観光業」の推進に努めています。



新幹線駅を拠点とした
広域観光ネットワーク

七戸町では、新幹線七戸十和田駅開業を機会に、駅周辺を観光・交流拠点として空間の整備を進めています。
また、自動車専用国道となる上北横断道路及び下北半島縦貫道路等の整備により、地理的条件からも県土整備の要となったことから、地域に適合する新産業の創造拠点としての利点を活かして、企業誘致等の推進に努めています。

七戸町の優れた自然的資源、歴史・文化的資源等を観光資源として有効に活用していくため、観光振興計画を策定し、

地域に適合する新産業の創造へ

七戸町では、新幹線七戸十和田駅開業を機会に、駅周辺を観光・交流拠点として空間の整備を進めています。
また、自動車専用国道となる上北横断道路及び下北半島縦貫道路等の整備により、地理的条件からも県土整備の要となったことから、地域に適合する新産業の創造拠点としての利点を活かして、企業誘致等の推進に努めています。

新幹線駅を拠点とした 広域観光ネットワーク

七戸町の優れた自然的資源、歴史・文化的資源等を観光資源として有効に活用していくため、観光振興計画を策定し、

七戸町の工業

景気に左右されない就労の場を確保するための企業立地が促進されるよう、新幹線開業による交通ネットワークの整備を絡めた、企業誘致等による新産業の創出と、企業立地基盤の整備に取り組んでいきます。

| 七戸町施策概要 | Town Planning Policy

農林畜産業

豊かな自然が育む農林畜産物を七戸町から全国に発信し続けていきます。



1) 稲刈り。黄色色に実った稲穂が揺れ、夕焼けに映える。 2) 10月頃に植えるのは、七戸町の名産品であるにんにく。 3) 七戸町営石倉山放牧場の。のんびりした風が流れる、広大で豊かな大地に育まれた黒毛和牛が元気に放牧されている。



産業を取り巻く環境と対策

七戸町には、河川を取り囲む平野部に農業が展開しています。また、商店街には古くから商業が集積し、町中央部と北部の工業団地には誘致企業が操業するなど、多様な産業基盤があります。
七戸町は県内有数の食糧生産地であり、今後は高付加価値を持った特産品の開発と流通販売体制の確立を図り、加えて東北新幹線の開通や七戸十和田駅の開業、高速道路等交通ネットワークの整備を活かした産業全体の活性化に波及させる取り組みが求められます。
また、農作物の低農薬化や有機栽培を拡大し、豊かな自然が育む「七戸ブランド」の農林畜産物を全国に発信し続けていきます。

七戸町の農業

経営所得安定対策として、水田フル活用ビジョンに基づき、複合型農業への対応として新しい作物栽培への試行や畜産との連携等、農業者の創意工夫を支援し、独創的な産業の創出を推進します。
七戸町では現在、農業従事者の高齢化や、後継者育成・支援に対応するため、大規模化によるコスト低減や営農集団の組織化・法人化を支援し、農地集積の推進を図っています。

七戸町の畜産業

七戸町の畜産業は、一戸あたりの飼養頭数が増加傾向にあり、経営規模の拡大が進んでいます。今後は先端技術の導入により、さらなる肉用牛の生産性向上、生産コストの低減、肉質の向上を図っていきます。

七戸町の林業

七戸町の林業は、林道等の整備や林業事業体のさらなる育成を図り、地域林業の定着・発展に努めています。

グリーンツーリズムの推進

グリーンツーリズムとは、農山漁村地域において、自然・文化・人々との交流を楽しむ余暇活動です。七戸町では、宿泊交流施設「かだれ天間林」を拠点とした農村体験型交流事業による農業の活性化・農家民泊登録（許可）農家の推進を行っています。

魅力ある市街地づくり

新幹線駅を拠点とした新たな観光ゾーンの形成を図るとともに、それを核とした十和田湖や下北半島との広域観光ネットワークの形成を推進しています。

商工観光業の推進へ

七戸町では、優れた自然的資源、歴史・文化的資源を有効に活用した、商工観光業の推進に努めるとともに、人々がふれあい、語り、そして賑わう、花と緑あふれる街並み空間の形成に努めています。



1) 県大会への出場権をかけ、毎年熱戦が繰り広げられている「七戸・天間林地区朝野球選手権大会」。2) 北奥羽への出場をかけた上北郡総合体育大会。3) 子どもから大人まで各年代ごとに熱い戦いが繰り広げられる「四市三郡七戸桜花柔道大会」。4) 七戸運動公園において夏に開催される「七戸町長杯サッカーフェスティバル」。地元チームTRIAS七戸SCも奮闘。5) 北奥羽への出場をかけた上北郡総合体育大会。6) 七戸運動公園テニスコートで行われるソフトテニス大会。人工芝のコートでナイター設備も備えている。

七戸町施策概要 | Town Planning Policy

スポーツ レクリエーション

七戸町では、子どもから高齢者まで、みんなが親しみを持って、長く楽しく参加できる生涯スポーツレクリエーションを推進しています。

七戸町とスポーツ

七戸町では、運動公園のほか、体育館、武道館、讃道館、屋内温水プール、ゲートボール場、屋内スポーツセンターなどスポーツレクリエーション施設の整備を着実に進めてきました。恵まれたスポーツ環境の下、子どもから高齢者までスポーツに親しみ、各種大会での活躍が続いています。

スポーツに対する取組み

七戸町では、次の3つを柱として住民による生涯スポーツの振興を推進していきます。

①生涯スポーツ振興体制の充実

スポーツレクリエーション環境を計画的に整備し、生涯スポーツ振興体制の確立を目指しています。また自主的・継続的にスポーツに親しめるよう、総合型地域スポーツクラブの設置に取り組んでいます。

さらにスポーツ少年団等、各種スポーツ団体の活性化を支援し、指導者の養成・資質の向上を図っています。

②健康・体力づくりの促進

地域交流スポーツ大会やスポーツイベントの開催、各種スポーツ教室等の開催を支援し、スポーツへの参加を広く呼びかけています。また、中高年者のスポーツ活動を奨励し、健康の維持増進と体力向上を推進します。

③スポーツ拠点の整備

主体的・継続的にスポーツレクリエーションを楽しむ拠点となる新体育館の建設や施設の改修に取り組み、その機能強化と利用率の向上を図っています。また、七戸町の気候を活かしたスポーツ合宿等の誘致促進や、高齢者や障害者が参加しやすいよう、コミュニティバスの運行計画を工夫する等、各施設間の交通ネットワークを整備し、スポーツに参加しやすい環境づくりを推進します。

町の公共スポーツ施設

七戸運動公園には野球場、土・天然芝の多目的グラウンド、人工芝のテニスコートがそれぞれ備えられています。また、体育館はトレーニングセンターを配置し、各種スポーツ・トレーニングが可能な施設となっています。その他にも、剣道・柔道での使用を目的とした武道館、屋内温水プール、屋内スポーツセンター等があります。冬期には町営スキー場もオープンし、四季を通じて、生涯スポーツ振興を支えています。

| 資料編 |

Shichinohe Data File

数字でみる七戸町

七戸町の「今」を知り尽くす。
数字を通して七戸町を眺めてみると
きっとさまざまな「今」が見えてくるはずです。

地勢・気象

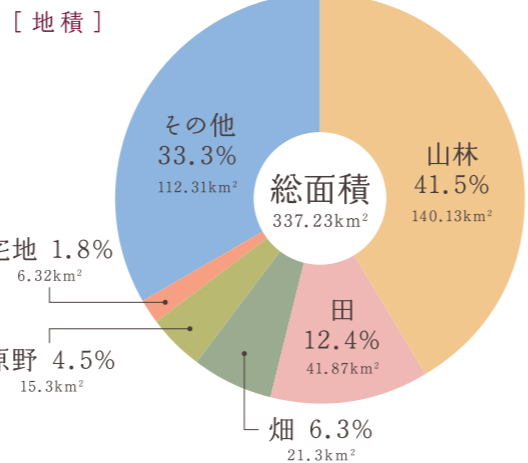
七戸町は、青森県東部に位置し、北と東に東北町、西は青森市、南は十和田市に接する内陸の町です。十和田湖や三沢、下北へ通じる交通の拠点であると同時に、町のほぼ中央には東北新幹線七戸十和田駅があり、県南地方の交通、観光の要となっています。

地勢を見ると、西側一帯は広大な国有林野で、標高1000メートルを超える八甲田山系が連なり、山麓から東に延びる丘陵は高低差が少なく、広大な水田地帯を形成しています。

気象は一年を通じて変化が激しく、中でも6月、7月には霧雨を伴ったヤマセ（北東風）のため気温の低い状態が続き、夏は短く、12月から3月にかけては北西の強い季節風が吹き、曇天、降雪の日が多くなっています。



- [本庁舎の位置]**
住所：青森県上北郡七戸町字森ノ上131-4
緯度：東経 141°09'43" 北緯 40°44'31"
- [七戸支所の位置]**
住所：青森県上北郡七戸町字七戸31-2
緯度：東経 141°09'03" 北緯 40°41'50"



[位置と面積]

面積		広がり	
337.23km ²		東西 約31km	南北 約26km
東経		北緯	
東端	西端	南端	北端
141°16'29"	140°54'17"	40°37'49"	40°48'52"

[土地利用] (参考資料：固定資産概要調書) (単位：km²)

年	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
令和元年	41.87	21.3	6.32	140.13	15.3	112.31	337.23

[気象状況] (参考資料：気象庁 十和田気象観測所)

年	気温			雨量		日照時間 (時間)	降雪		
	平均(℃)	最高(℃)	最低(℃)	年間降水量 (mm)	1日最大 (mm)		年間降雪量 (mm)	1日最大 (mm)	初雪
平成26年	9.5	33.4	-16.5	1083.5	80.0	1922.6	513	30	12月2日
平成27年	10.5	34.4	-16.0	927.0	88.5	1853.4	269	22	12月6日
平成28年	10.1	35.0	-14.3	1231.0	116.0	1826.2	163	20	11月9日
平成29年	9.7	35.1	-14.5	1068.0	68.0	1585.8	285	29	11月19日
平成30年	10.0	34.5	-15.7	1225.5	81.5	1812.2	207	15	11月23日



- 1) 産地ならではの色と甘さが特徴の「りんごジュース」。
- 2) 町が日本一の生産量を誇る、驚異的な栄養価を持つ「アピオス」。
- 3) 雪の下で育ったにんにくを、温湿度調整だけで長時間熟成発酵させた「黒にんにく」。
- 4) 高温製法で手作りされる「すころくあめ」。
- 5) 産地ならではの香り、風味豊かな手作りの「にんにくオイル」。
- 6) 肉の旨みがたっぷり入った「ビーフジャーキー」。
- 7) 古い布を生き返らせるための織物「南部裂織り」。
- 8) 八甲田山系の高瀬川伏流水を使い、蔵元が丹精込めて腕をふるい、醸造した地酒「駒泉・作田」。
- 9) 大自然ですくすく育った町自慢の特産農産物、にんにく・長いも・トマト。



| 七戸町施策概要 | Town Planning Policy

七戸ブランド

「食」による七戸町のイメージアップを図るため、地域特産品を商材とした戦略的販売を展開し、「七戸ブランド」の確立を目指します。

- ＜プロジェクトテーマ＞
- ① 七戸町特産品（特有野菜等）の認証制度の推進
 - ② 地域特産品の地域内消費拡大
 - ③ 商材を活かした第六次産業化に向けた農工商連携の強化
 - ④ 長期的・総合的な特産品開発や地域リーダーの育成
 - ⑤ 観光交流センターを核とした、七戸十和田駅圏域各市町村特産品のPRと販売
- * 商材：農業界が異業種との協働の際の留意点は、「農産物」ではなく利益を生み出す「商材」という言葉を使うことが必要です。協働・連携の相手にとって農産物は農産物ではなく利益を生む「商材」です。

地産地消文化の推進

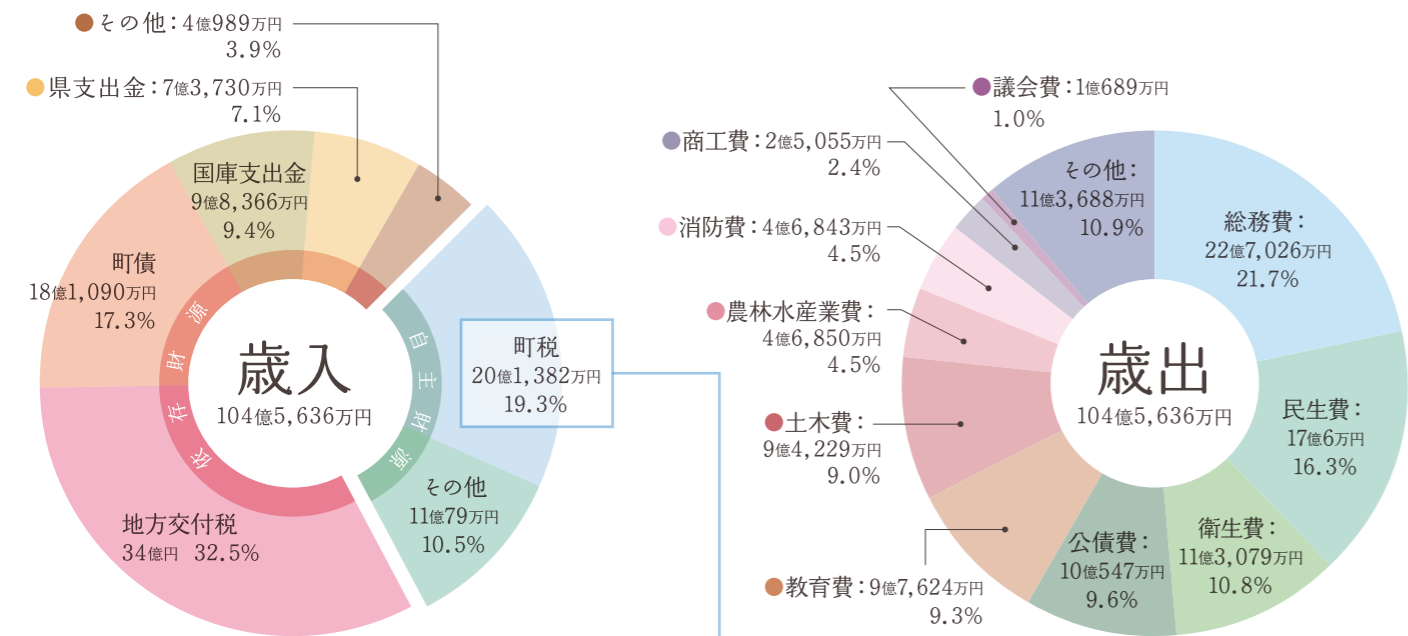
クリーンな農業の推進を図り、町の基幹産業である第一次産業の活性化の推進に努めるとともに、地域の生活文化に根ざした食文化（地産地消文化）を推進します。

「七戸ブランド」の確立を

地域特産品は観光のみならず地域振興にとって重要な要素です。農産物を商材とした加工品等を中心に異業種との連携を図りながら、相互販売、話題となる宣伝戦略等を展開し、「売りがいい」「買いがい」のある「七戸ブランド」の確立を目指します。

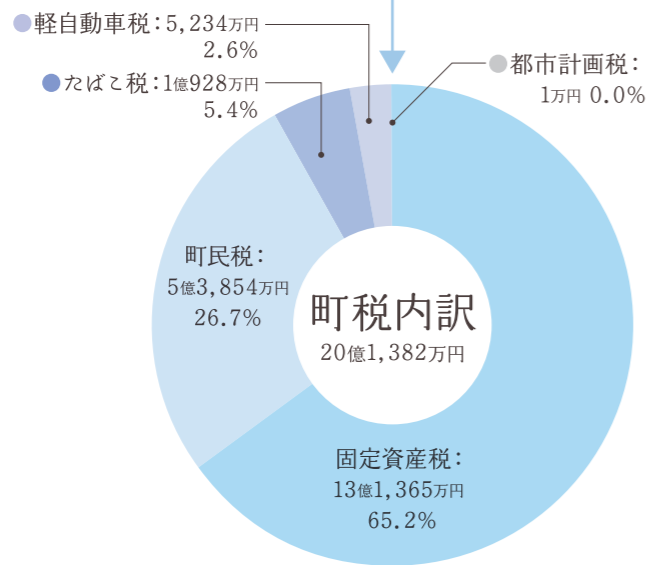
町の財政

[令和元年度（平成31年度）一般会計予算]



【歳入用語の説明】

- 町税
町民が町に納める税金
- 地方交付税
所得税など、国が徴収した税金の中から、地方公共団体の財政状況に応じて交付されるお金
- 町債
町が行う建設事業などの財源に充てるため、借り入れるお金
- 国庫支出金
町が行う特定の事業の財源として、国から町に交付されるお金
- 県支出金
町が行う特定の事業の財源として、県から町に交付されるお金



【歳出用語の説明】

- 総務費
町の総括的な事務に使うお金
- 民生費
主に福祉関係に使うお金
- 衛生費
保健施設・ごみ処理など安全で衛生的な生活のために使うお金
- 公債費
町債を返済するために支払うお金
- 教育費
学校の管理や公民館など教育全般の事務や事業に使うお金
- 土木費
道路や公園など公的施設に使うお金
- 農林水産業費
農林水産業の支援や指導育成に使うお金
- 消防費
消防・救急活動や消防施設などの整備に使うお金
- 商工費
商工業の支援育成や各種イベントの補助などに使うお金
- 議会費
町議会の運営や議員の報酬などに使うお金

町民1人あたりの負担額=13万円 1世帯あたりの負担額=29万5千円

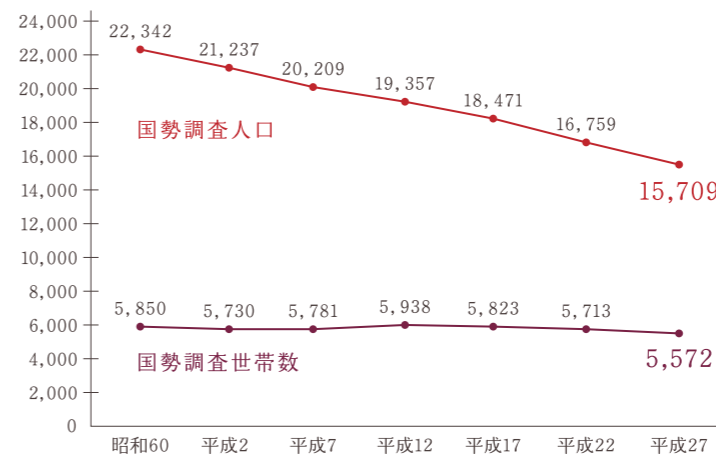
令和元年10月1日現在 人口 15,500人/世帯数 6,816世帯（住民基本台帳月報集計より）

[令和元年度（平成31年度）特別会計予算]

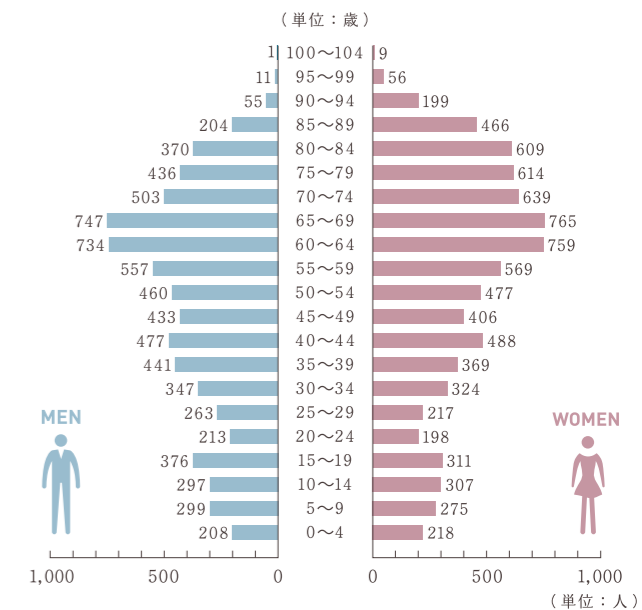
国民健康保険	20億1,601万円	七戸霊園事業	221万円
後期高齢者医療	3億8,072万円	公共下水道事業	4億4,172万円
介護保険	25億9,043万円	農業集落排水事業	6,187万円
介護サービス事業	420万円	水道事業	3億645万円
合計 58億361万円			

人口

[国勢調査人口・世帯数]（参考資料：平成27年国勢調査）



[年齢別人口]（参考資料：平成27年国勢調査）
平成27年4月1日現在



[人口動態]（参考資料：住民基本台帳）

◆ 自然動態

年	出生			死亡			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
平成26年度	81	35	46	244	138	106	-163	-103	-60
平成27年度	74	29	45	243	122	121	-169	-93	-76
平成28年度	88	45	43	254	133	121	-166	-88	-78
平成29年度	74	38	36	238	113	125	-164	-75	-89
平成30年度	61	33	28	254	128	126	-193	-95	-98

◆ 社会動態

年	転入			転出			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
平成26年度	430	234	196	483	242	241	-53	-8	-45
平成27年度	360	188	172	469	237	232	-109	-49	-60
平成28年度	348	173	175	450	242	208	-102	-69	-33
平成29年度	353	194	159	405	212	193	-52	-18	-34
平成30年度	375	195	180	482	251	231	-107	-56	-51

教育

[児童・生徒数]（参考資料：学校基本調査）

年	小学校							中学校				高校
	総数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	総数	1学年	2学年	3学年	総数
平成26年度	710	126	101	119	113	106	145	393	127	139	127	452
平成27年度	689	126	127	102	117	111	106	369	138	111	120	442
平成28年度	687	105	126	127	102	117	110	317	91	117	109	436
平成29年度	682	108	106	124	127	101	116	328	106	90	132	415
平成30年度	672	101	111	109	123	127	101	298	103	105	90	404

Access to Shichinohe

七戸町へのアクセス



JRで

<東北新幹線>

- 東京駅→(3時間05分)→七戸十和田駅
- 仙台駅→(1時間30分)→七戸十和田駅
- 盛岡駅→(45分)→七戸十和田駅
- 八戸駅→(12分)→七戸十和田駅
- 新青森駅→(14分)→七戸十和田駅



東京方面より車で

<東北自動車道～八戸自動車道～上北自動車道経由>

(経由) 安代JC→八戸自動車道→百石道路→第二みちのく有料道路→上北自動車道→七戸I.C



バスで

- 青森市から→(十和田市行70分)→役場前下車(本庁舎)→七戸案内所下車(七戸庁舎)
- 八戸市から→(十和田市行終点乗換、急行青森行80分)→七戸案内所下車(七戸庁舎)→役場前下車(本庁舎)



飛行機で

- 羽田空港→(1時間15分)→青森空港→(車で80分)→七戸町
- 羽田空港→(1時間20分)→三沢空港→(車で40分)→七戸町

令和元年度版 七戸町勢要覧
2020年3月発行

- 編集 | 七戸町企画調整課
- 制作 | アール・エー・ビー開発株式会社
- 発行 | 七戸町
- 〒039-2792 青森県上北郡七戸町字森ノ上131-4
- <TEL>0176-68-2111 <WEB> www.town.shichinohe.lg.jp



*本誌掲載の写真・図版・記事等の無断転載、複製を禁じます。

主要施設一覧

市外局番 0176

町の機関

役場関係施設

- 七戸町役場本庁舎
〒039-2792 字森ノ上131-4 tel.68-2111 fax.68-2804
- 七戸町役場七戸支所
〒039-2592 字七戸31-2tel.62-2111 fax.62-6245
- 七戸中央公民館
〒039-2827 字森ノ上210 tel.68-2920 fax.69-2176
- 七戸南公民館・七戸中央図書館
〒039-2524 字寺裏22 tel.62-2118 fax.62-3044
- 七戸町文化交流センター
〒039-2555 字前田32 tel.62-9111
- 農村環境改善センター(柏葉館)
〒039-2525 字七戸22-8 tel.62-6661

学校施設

- 七戸小学校
〒039-2526 字上町野130 tel.62-2602 fax.62-6719
- 城南小学校
〒039-2516 字館野32-58 tel.62-2910 fax.62-2203
- 天間林小学校
〒039-2827 字森ノ上180-1 tel.68-2029 fax.68-2821
- 七戸中学校
〒039-2567 字鶴見平191 tel.62-3220 fax.62-3803
- 天間林中学校
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.58-7775 fax.58-7716

福祉施設

- 七戸町地域包括支援センター
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.68-3500 fax.68-3536
- 天間林保健センター
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.68-4631 fax.68-3536
- 天間林老人福祉センター
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.68-2249 fax.68-4550
- 七戸町総合福祉センター ゆうずらんど
〒039-2505 字立野頭139-1 tel.62-6790 fax.62-3628

スポーツ施設

- 屋内温水プール
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.68-3363
- 屋内スポーツセンター
〒039-2826 字中野16-1 tel.69-1111 fax.69-1112
- 七戸運動公園管理棟
〒039-2567 字鶴見平1-108 tel.62-9001
- 七戸運動公園野球場
〒039-2567 字鶴見平1-108 tel.62-2051
- 七戸体育館
〒039-2571 字蛇坂57-36 tel.62-2051 fax.62-2401
- 町営スキー場
〒039-2568 字左組106-5 tel.62-5612
- ふれあいセンター
〒039-2826 字中野16-1 tel.69-1111 fax.69-1112

Shichinohe Data File

観光施設

- しちのへ産直七彩館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5777
- 七戸町観光交流センター
〒039-2501 字荒熊内67-49 tel.51-6100 fax.51-6101
- 鷹山宇一記念美術館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5858 fax.62-5860
- 天間林宿泊交流施設「かだれ天間林」
〒039-2781 字花松林ノ根35-1
- 東八甲田家族旅行村
〒039-2568 字左組142-1 tel.62-5671
- 東八甲田ローズカントリー
〒039-2500 字山館25-1 tel.62-5400 fax.62-5401
- 道の駅しちのへ 道路・観光情報館
〒039-2501 字荒熊内67-997 tel.62-2137 fax.51-5377
- 道の駅しちのへ 物産館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5777 fax.62-5779
- わんだむらんど
〒039-2500 字山館30-30 tel.62-9030

国・県の機関

- 青森県営農大高等学校
〒039-2502 字大沢48-8 tel.62-3111 fax.62-3986
- 青森県立七戸高等学校
〒039-2516 字館野47-31 tel.62-4111 fax.62-4112
- 青森県立七戸養護学校
〒039-2571 字蛇坂57-31 tel.62-2331 fax.62-4535
- 上北教育事務所
〒039-2593 字蛇坂55-1 tel.62-2128 fax.62-2130
- 上北地方福祉事務所
〒039-2594 字蛇坂55-1 tel.62-2145 fax.62-2454
- 三八上北森林管理署 北坪川森林事務所
〒039-2827 字森ノ上207-11 tel.68-2149
- 三八上北森林管理署 七戸森林事務所
〒039-2512 字筑田69-5 tel.62-2945
- 七戸警察署
〒039-2502 字大沢57-49 tel.62-3101 fax.62-6185
- 七戸警察署天間林駐在所
〒039-2827 字森ノ上132-15 tel.62-2110
- 七戸児童相談所
〒039-2594 字蛇坂55-1 tel.60-8086 fax.60-8087
- 独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場
〒039-2567 字鶴見平1 tel.62-3281 fax.62-3283
- 独立行政法人種苗管理センター上北農場
〒039-2717 字柳平43-86 tel.68-4311 fax.68-4121

広域の機関

- 上北地方教育・福祉事務組合
〒039-2571 字蛇坂55-8 tel.62-5154 fax.62-9587
- 公立からまつ寮
〒039-2845 字作田道52-2 tel.68-2601 fax.68-2602
- 公立七戸病院
〒039-2595 字影津内98-1 tel.62-2105 fax.62-6964
- 公立中央消防署
〒039-2501 字荒熊内159-4 tel.62-3141 fax.62-5119

- 公立中部上北斎場
〒039-2531 字太田101-1 tel.62-2555
- 公立もみのき学園
〒039-2571 字蛇坂45-2 tel.62-3161 fax.62-9990
- 中部上北学校給食センター
〒039-2744 字塚長根40-5 tel.68-2211 fax.68-4461
- 中部上北教育研修センター
〒039-2571 字蛇坂55-8 tel.62-5156 fax.62-6940
- 中部上北広域事業組合
〒039-2571 字蛇坂55-8tel.62-5151 fax.62-9587
- 中部上北最終処分場
〒039-2752 字録森平185-4
tel.0175-63-4429 fax.0175-63-4436

その他の機関

- 青森県家畜市場
〒039-2567 字鶴見平72-1 tel.60-1070 fax.60-1073
- 荒屋平土地改良区
〒039-2516 字館野32-19 tel.62-2277
- 榎林土地改良区
〒039-2755 字榎林家ノ前40 tel.68-3423
- 榎林郵便局
〒039-2755 字榎林家ノ前46-4 tel.68-3100 fax.68-4689
- 上北森林組合
〒039-2827 字森ノ上87-1 tel.69-1200
- JAゆうき青森農業協同組合天間林支店
〒039-2827 字森ノ上198 tel.68-3131 fax.68-2686
- JA十和田おいらせ農業協同組合七戸支店
〒039-2511 字沢田川久保8-3 tel.62-2195 fax.62-2198
- 七戸商店会協同組合
〒039-2525 字七戸123-20 tel.62-2075 fax.62-5101
- 七戸職業能力開発校
〒039-2571 字蛇坂57-3 tel.62-2491 (fax兼)
- 七戸畜産農業協同組合
〒039-2501 字荒熊内67 tel.62-2125 fax.62-2192
- 七戸町社会福祉協議会
〒039-2505 字立野頭139-1tel.62-6790 fax.62-3628
- 七戸町商工会
〒039-2525 字七戸48-3 tel.62-2521 fax.62-5229
- 七戸町天間林商工会
〒039-2815 字森ノ下48-3 tel.68-2189 fax.68-4444
- 七戸郵便局
〒039-2599 字七戸205-3 tel.62-2700 fax.62-3698
- 社団法人中部上北広域シルバー人材センター
〒039-2505 字森ノ上16-4 tel.58-0141 fax.58-0142
- 天間林土地改良区
〒039-2832 字道ノ上133-2 tel.68-2012
- 天間林郵便局
〒039-2799 字道ノ上62-9 tel.68-3060 fax.68-4773
- 日本軽種馬協会七戸種馬場
〒039-2501 字荒熊内153 tel.62-2619 fax.62-6918